

校章について

校章は、統合前の東比田小学校3年生児童（当時）の作品をほぼ原作どおりに図案化した。2人の子どもが「前へならえ」をしている姿で、「比」の文字を表しており、旧東西両校の子どもたちが仲良く、そろって健やかに成長することを願う校章である。

校歌について

校歌の歌詞は、比田地区住民、出身者から公募し、比田交流センター長（当時）小池謙次氏の詩を選定した。その詩は、比田地区の自然風物賛歌となっており、同時に、統合比田小学校への地域の人々の期待が込められている。作曲は比田中学校教頭（当時）の森脇勇先生（ペンネーム「丈晴」）に依頼した。詩のイメージを生かした伸びやかな曲想で、小学生にとって歌いやすいメロディーとなっている。

1 学校の沿革

平成 16 年	4 月 1 日	東比田小学校と西比田小学校を統合し、4月2日 比田小学校を開校
	9月15日	学力向上フロンティア事業公開授業研究会（1・3年）
	10月14日	学力向上フロンティア事業公開授業研究会（5・6年）
平成 17 年	9 月 1 日	学校評議員会発足
平成 19 年	3 月 7 日	刺繍校章旗新調（教育後援会）
	3月28日	「みんなで調べる中海流入河川調査」県知事賞受賞
	8月19日	旧比田中学校校舎へ移転
	10月31日	広瀬中ブロック人権・同和教育研究会授業公開
平成 20 年	3月28日	「みんなで調べる中海流入河川調査」県教育長賞受賞
	4 月 2 日	金銭教育研究指定（平成 20～21 年度）
平成 21 年	3月27日	「みんなで調べる中海流入河川調査」県知事賞受賞
平成 22 年	4 月 1 日	学校図書館司書配置
平成 23 年	4 月 1 日	「かがやき学級」新設
平成 24 年	11月22日	広瀬中ブロック人権・同和教育研究会会場校（2年、5・6年）
平成 27 年	8 月 7 日	島根県小中学校硬筆書写コンクール 学校賞
平成 28 年	4 月 1 日	「あおぞら学級」新設
平成 29 年	7 月 7 日	広瀬中ブロック人権・同和教育研究会会場校（4年、5・6年）
平成 30 年	4 月 2 日	島根県金銭教育研究校指定（平成 30～31 年度）
	8 月 7 日	島根県小中学校硬筆書写コンクール 学校賞
令和 元 年	8 月 9 日	島根県小中学校硬筆書写コンクール 学校賞
令和 2 年	2 月 7 日	島根県金銭教育研究発表会・研究発表
令和 2 年	11月 4 日	島根県教育委員会「優れた教育活動表彰」受賞
令和 3 年	3 月 1 日	「みんなで調べる中海流入河川調査」県教育長賞受賞
令和 3 年	8月10日	島根県小中学校硬筆書写コンクール 学校賞
令和 3 年	12月 8 日	島根県複式教育推進事業研修会（5・6年授業公開）
令和 4 年	8月10日	島根県小中学校硬筆書写コンクール 学校賞
令和 4 年	12月 2 日	広瀬中ブロック人権・同和教育研究会会場校（1・2年、5・6年）
令和 6 年	10月25日	島根県教育研究大会会場校（3・4年）

2 校区の概要

学校は東経 133° 08'、北緯 35° 14'、海拔 297mにあり、飯梨川の上流約 40km、地域の中央を東西に県道草野横田線、南北に国道 432 号線が通る。県道と国道は拡張され、交通事情は改善されている。東比田は海拔 370 mの山間地域、西比田は海拔 300mの高原性盆地にあり、自然豊かで四季折々の季節感にあふれた地域である。

南東には約 861mの猿隠山がそびえ、山頂からは中国山地の連山や日本海、弓ヶ浜半島が見渡せる。西比田には古来タタラの神を祀る金屋子神社がある。昭和 20 年頃までは金屋子タタラで製鉄をしていた。東比田には牛の神を祀る縄久利神社がある。

世帯数は 392 戸、人口は 870 人（R7.04.1 現在）、産業は昼夜の寒暖の差を生かした野菜や果物栽培、比田の良質米の生産に力を入れている。近年は国道 432 号線などの拡幅が進み、近隣市町への通勤者も増加している。地域住民の手による比田地域ビジョンの実現に向け、比田地域活性化の取組が盛んに展開されている。